

国語教育相談室

中学校
no.
67

光村図書



特集

「インタビュ」で育てる力

巻頭
エッセイ

コピーを書くということ
谷山雅計

教師力
講座

楽しい国語学習の
スタートを

古典への
扉

春をめぐる
昔と今

書写

教えて！行書のこと



明日の国語力

平成24年度版中学校国語教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」

ポイント
1

全員で見る大きな教科書

ポイント
2

新たに「文学」「説明文」「文法」も収録

ポイント
3

授業をサポートする豊富な資料

光村「国語デジタル教科書」1～3年(学校フリーライセンス) 税込価格 各学年 68,250円(本体価格 65,000円) **2012年3月発売**

※学校フリーライセンスとは、校内でご利用になる指導用パソコンの台数を制限しない契約です。※価格には、サーバやパソコンへのインストール費用は含まれておりません。

体験版は10月より配布開始！詳しくは右記ホームページまで。 <http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.144 2012(平成24)年1月17日発行 定価126円(税込)
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝村田印刷工業株式会社 デザイン＝mint grafix 撮影＝高宮青志

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

しあわせ

「幸せ」って何だろう。朝、温かいごはんと納豆とキムチと具たくさん味噌汁を食べる「幸せ」。朝、ゆっくり眠りをむさぼる実に夢のような「幸せ」もある。

この「しあわせ」という言葉の語源は「し+あわせる」で、「する」に「めぐりあわせ」などにある「あわせる」がくっついた言葉で、巡り合わせのことである。本来の意味から考えれば、「よい+しあわせ」も「悪い+しあわせ」もあつたと言える。ただし、現在では、「しあわせ」だけで、「よい+しあわせ」だけを表す。このような意味の変化はほかにもある。例えば「天気」には本来「いい天気」「悪い天気」もあるのだが、「天気」だけで、「いい天気」だけを表すようになった。「結構」もそうだ。「結構」とは、漢字の意味

の通り、もともと「こしらえ」などを表す名詞だが、「結構」だけで、特に「よい+結構である」ことを表すようになった。言葉の変化は、意外とブラ入指向だ。なかなか、結構なことですよ。さて、この「よき+しあわせ」＝「幸せ」だが、英語にも共通する。実は、ハッピー「happy」という言葉も、「出来事が偶然起る」ことを形容詞にした言葉である。この「hap」は、「happen」や「perhaps」などの語の中にもある。日本語でも英語でも、ありがたき偶然に感謝する気持ちこそが「幸せ」なのだ。もし「幸せ」なのであれば、その巡り合わせに対して、感謝しましょう。もちろん、あの有名な歌のように、手をたたいてもいいです。

でも、そのままダイレクトに、「幸せ」を勝ち取れないということもあり得ることになる。でも、いつかそのうち、ひょいと「よき+しあわせ」がめぐってくることもあるはずだ。

また、この社会は、偶然の出会いとつながりに満ちている。そんな中で、自分との「出会い」が他の人の「幸せ」に多少ともつながることだってあるはずだ。もしそんなことがあるのなら、それが自分にとってのまさに理想的な「幸せ」ではないか。例えば、学生のみなさんに、少しでも「しあわせ」感のある授業をしたい。ただ、たまには私の授業が受講者を幸せな眠りにいざなってしまつこともあるようなのだが。うむむ。――あなたの「幸せ」、何ですか？

CONTENTS

探検！言葉の森 16 しあわせ ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ
言葉と向き合う 02 コピーを書く、ということ ————— 谷山雅計

特集 04 「インタビュー」で育てる力

対談「インタビュー」で世界を広げる ————— 永江 朗・宗我部義則

インタビュー指導 Q&A ————— 甲斐利恵子

実践提案 ————— 新しい指導を考える会

- 1 「インタビューエッセイ」で学び合う
- 2 身近な人の魅力を語る

教師力講座 14 20 楽しい国語学習のスタートを ————— 甲斐利恵子

古典への扉 4 24 春をめぐる昔と今 ————— 東野泰子

書写指導の可能性を探る
番外編 26 教えて！行書のこと ————— 鍋島稲子

30 平成24年度 指導書のご案内

「気のきいた言葉を書く人」

「しゃれた言葉を書く人」

ひょっとしたら、コピーライターは多くの人たちから、そう思われているかもしれない。たしかにそういう一面もないとは言えないのですが、決して言葉だけを考えているわけではないのです。「言葉の前に知恵ありき」——ぼくは、いつもそう思っています。

たとえば、これまでの仕事に、新潮文庫の「Yonda?」があります。大貫卓也さん(※)といっしょに担当し、十五年近く続いているキャンペーンです。キャラクターにパンダを使い、コピーは「Yonda?」だけ。コピーライターとしては、ずいぶん気楽な仕事だろうなと思われるかもしれませんが、でも、ここにたどり着くまでに、さまざまな知恵をしまりました。

じつは、ぼくらが担当する前から、新潮文庫では、質の高いキャンペーンが行われていました。糸井重里さんが「想像力と数百円」という、すばらしいコピーを書き、知的なブランドイメージをしつ

コピーを書く、 とびうこと

コピーライター・
クリエイティブディレクター
谷山雅計たにやまさかず

かり確立していた。とてもいい広告なのは間違いないのですが、ぼくらには一つだけ疑問がありました。それは「広告のイメージがよいからといって文庫を買うだろうか?」ということなのです。

人は本を買うとき、著者名や書名などで選びます。たとえば、夏目漱石の『こころ』を買おうと思ったとき、講談社文庫でも集英社文庫でもいい。中身が同じなのだから、新潮文庫を買わなければならない理由はありません。だから、「わざわざ新潮文庫を買う理由」をつくらなければならぬと思いました。それで、

大貫さんと何度も話し合いを重ね、「クーポンのようなことをしよう」という結論に達しました。新潮文庫を買った人が必ず得をする魅力的なシステムを導入しようと考えたのです。

とはいえ、本とは関係のない〇冊買ったら五万円が当たる」のような安っぽいものになってはいけません。本に関する知的ですてきなグッズが、文庫を何冊か買ったら必ずもらえるシステムにしようということになりました。そして、そのシステムのシンボルとなるキャラクターを考えることになったのです。

ぜんぶで三百ぐらいの案を出したでしょう。か。「メニクマ」という、本を読みすぎて目の下にクマができた熊のキャラクターだったり、ナマケモノをモチーフに「レキシモノ」「レンアイモノ」と、本のジャンルごとに複数のキャラクターを考えたり。いま振り返ると、くだらないものもたくさんあります。「キャラクター名はキャンペーンのキャッチコピー」にしたかったので、なかなか難しかった。そして、最終的に採用されたの

が、「Yonda?」というパンダでした。

このキャラクター名には、きちんとした意味があります。文庫というのは、基本的に単行本で出されてから数年後に発行されます。だから、「読む?」よりも「読んだ?」の方がしっくりくる。

それから、カタカナで「Yonda?」でもなく、ひらがなで「よんだ?」でもなく、ローマ字にしたのは二つ理由があります。一つはキャラクター性。アルファベットの方が、記号のようにパツと目に飛びこんでくるし、もしパンダがなくて言葉だけでもキャラクター感があります。もう一つは、記憶に残りやすいということ。見た人は「Yonda?」……

ああ、『読んだ?』つていうことか」と、ほんの一瞬ですが、考えます。そうすると記憶されやすい。これが「読んだ?」というそのままのコピーだったら、記憶に残りにくいのです。コピーにはコミュニケーションが大事です。コミュニケーションはよくキャッチボールにたとえられますが、簡単に取れるボールばかりだとキャッチボールはつまらない。少し取

りにくいボールが来て「取れた!」って思えると、うれしいし記憶に残りやすい。コピーも同じで、丸わかりなコピーでなく、ほんの少しだけ考えさせるコピーの方がいいのです。

「Yonda?」は非常に短い言葉ですが、このように、さまざまな考えをもとにつくりました。だからこそ、長く使われ続けているのかもしれない。

* * *

最近、ぼくは大学生やコピーライターを目指す若い人たちの前で講義をする機会が多いのですが、彼らは、言葉をひねつ

谷山雅計
たにやまさかず

1961年 大阪府生まれ。東京大学教養学部卒業後、博報堂に入社。その後、97年より独立。おもな仕事に、東京ガス「ガス・パツ・チョ!」、新潮文庫「Yonda?」、資生堂「TSUBAKI」「UNO FOG BAR」、東洋水産「マルちゃん正麺」など。TCC賞、朝日広告賞、毎日広告賞など受賞多数。著書に「広告コピーってこう書くんだ!読本」(宣伝会議)がある。

て「こんなにおもしろいことを考えている私を見て」と、「商品」より先に「自分」を表現します。そうしたい気持ちも悪いことではないですが、そこからのコピーは生まれにくい。

ぼくが書くコピーは、「ガス・パツ・チョ!」(東京ガス)、「日テレ営業中」(日本テレビ)、「日本の女性は、美しい。」(資生堂/TSUBAKI)など、短く、平易な言葉を使ったものが多いので、「こんな、誰でも書けるんじゃない?」と思われるがちです。でも、それでいいと思っています。コピー自体が褒められる必要はない。コピーが読んだ人の心に残って、クライアントである企業や商品が褒められればいいのですから。

コピーライターは、企業や商品を、どうすれば世の中に知らしめることができるだろうか、どうしたら愛されるだろうか、と、徹底的に知恵をしぼるのが仕事です。そして、その知恵を「言葉」という形で世の中に出す。それがコピーと呼ばれるのだと思っています。(談)

※大貫卓也

アートディレクター。多摩美術大学卒業。主な仕事に、としまえん、ペプシコーラ「ペプシマン」、資生堂「TSUBAKI」など。日清カップヌードル「hungry?」でカンヌ国際広告映画祭グランプリなど受賞多数。

特集

「インタビュー」で 育てる力

国語の時間だけでなく、職場訪問や総合的な学習の時間などで、生徒がインタビューをする機会が増えています。しかし、実際に行ってみると、「話が続かない」「一問一答になってしまう」などの課題も多いようです。

インタビューをどのように指導すればよいのか、インタビューで身につく力は何か——プロのインタビュアーとの対談と、現場の実践から探っていきます。

「インタビュー」で世界を広げる

フリーライター
永江 朗

対 談

お茶の水女子大学
附属中学校教諭
宗我部 義則

これまで千人以上にインタビューをし、「インタビュー術!」などの著書もある永江さんと、現場でさまざまな実践をされている宗我部先生に、インタビューのおもしろさや、中学生にどのような指導が考えられるか、語り合っていました。

相手の言葉を引き出す

宗我部 永江さんは、インタビューのお仕事をたくさんされていますが、肩書きは、インタビューアーでなく「フリーライター」なんですね。

永江 ときどき「フリーター」に間違えられて、「いい歳なんだから、そろそろきちんとした仕事につきなさい」と言われたりするんですけども（笑）。私は、インタビュー、評論、エッセイ、取材……なんでもするので、「フリーライター」と名乗っています。

宗我部 今回、永江さんに、まず「インタビュー」と「取材」の違いについて、お聞きしたいのですが。

永江 ジャーナリズムの現場では、大きな違いはないと思います。一つあるとしたら、インタビューはあくまでインタビュー



特集

「インタビュー」で
育てる力

イー（話し手）の言葉をどう引き出すかが重要だということでしょうか。以前、新刊を出した作家にインタビューしたとき、「言いたいことはこの本の中に書いてあるから」と言われたことがありました。確かに、本から抜き出して記事はできるかもしれませんが。でも、それでは意味がないんですね。インタビューは、たとえ本に書いてあることであっても、生の声で語ってもらわないと成立しません。

宗我部 私たちは、インタビューという情報を集める一つの方法というか、「知りたいことについて聞く」ことをイメージしがちです。ですから、質問に対する答えがとても重要だと思っているかもしれません。

永江 私は、インタビューがどんな人なのか、彫刻のように見せたいと思っています。話した内容もちろん大事ですが、話し方や表情をとらえて文章化できないだろうか、よく考えますね。例えば「そうです」という言葉一つをとっても、それがボソッとつぶやくように言ったのか、にこやかに大きな声で言ったのかでは、ずいぶん意味合いが異なります。だから、インタビューの口癖や語尾など、細かいところも気にするようにしています。そういう部分に、その人自身が表れたりします。

永江 知っていることを再確認するだけになってしまっていたら、それはいいインタビューとは言えないと思いますね。私はみっちり下調べしてからインタビューに臨むんですけれども、下調べの段階で、すでに世の中で知られているようなことは除き、まだ誰も聞いていない質問、インタビューイーも予想していなかったような質問を考えるようにしています。

宗我部 職場訪問や総合的な学習の時間で外部の人にインタビューする場合、中学生にも下調べさせるのですが、やはり子どもです。そこからプロのような深い質問を考えることはなかなか難しいんです。ですから、私は、子どもに質問を立てさせるとき、自分の考えを交えるように指導しています。

永江 自分の考えを？

宗我部 例えば、総合的な学習の時間を使って、「街のバリアフリーのあり方を考える」というテーマで、役所の福祉課の方にインタビューをします。そうしたら、まず、そのテーマについて知っていることを子どもの生活体験の中から思い出させ、それについて自分はどういう考えをもっているのかをまとめさせます。

その後、下調べをし、質問を考えさせ



永江 朗
1958年北海道生まれ。フリーライター。2008年より早稲田大学文化構想学部教授（任期付）。洋書輸入販売会社に勤務後、雑誌編集者を経て、文筆活動に入る。現在、コラム書評・エッセイなど幅広く活躍中。その的確なインタビュー術に定評がある。主な著書に『インタビュー術！』（講談社現代新書）、『書いて稼ぐ技術』（平凡社新書）、『不良のための読書術』（ちくま文庫）など多数。

宗我部 話し手の言葉を引き出し、その人自身を浮かび上がらせるのがインタビューということでしょうか。言葉を引き出すためには、質問の形を工夫していく必要がありますね。

質問項目のつくり方

宗我部 インタビューの準備というと、質問したいことを考えることばかりになりがちだと感じています。それだと「○○についてどう思いますか」「では、次の質問で

ます。「私はこう思うが、専門の方から見てどうなのか」「調べる中でこういうことがわかったが……」など、自分の考えをふまえた上で質問を立てさせるんです。

永江 それはいいですね。

宗我部 中学生の場合は、わからないことを聞きに行くよりも、自分の考えをぶつけるつもりでインタビューさせた方が、相手とのやりとりができると思うんですが、自分の考えがあれば、インタビュー先でも相手の答えに「なぜ？」「でも～では？」と重ねていくことができます。

す」と、用意した質問を順番に聞いていくだけの一问一答になってしまつて話が深まらない。子どもは素直ですから、先生が「質問項目をたくさん考えよう」と投げかけると、質問を出すことに夢中になってしまつて、「何のために聞きたいのか」という目的を見失いがちです。

永江 私は、大学でも教えているのですが、学生には、「質問項目は徹底的に絞りこみなさい」と、よく言います。でも、質問はたくさん考えた方がいいので、まず百個考えさせる。そして、それを三十個に絞つて、最終的には十個にする。その中で優先順位をつけて、上位のものから聞いていく、というように指導をしています。

宗我部 そうやって、質問を絞り込んでいくことで、自分が聞きたいことが明確になっていきそうですね。

永江 インタビューの時間は限られていますが、十個のうち一つしか聞けないこともあります。だからといってインタビューが失敗したというわけではありません。逆に、十個すべて聞けたからといって、いいインタビューとは限らない。

宗我部 質問が聞けたのに必ずしもいいインタビューでないというのは、例えばどういうことですか。

永江 すばらしい。仮説を立てていくわけですね。その場合、むしろ仮説が崩されると、おもしろい記事になるんですよ。また、こちらが仮説を立てて尋ねると、普段は持論をとうとうと述べるインタビューイーが、感情をあらわにして、真剣に対峙してきました。そういうときの記事は生き生きとしたものになるんです。

失敗した方がいい

永江 それから、私は、中学生にはぜひ「子どもの特権」を生かしてインタビューしてほしいなと思います。

宗我部 子どもの特権？

永江 私のような五十歳を過ぎたおじさんは聞けない質問でも、中学生なら聞けますよね。その特権は存分に生かしてほしい。そういう意味で糸井重里さんは天才的な聞き手だなと思います。彼は、ある会社の社長に「人間、お金をもつたら変わりますか」とか、いい歳してこれは聞けないよねってこともストレートに聞くんです。中学生にこそ、そういうインタビューをしてほしい。**宗我部** なりふり構わず突っ込んでいくのは、中学生だからこそできることかもしれませんね。逆に教師が指導しすぎると、そ



中学生には、 自分の考えをぶつけるつもりで

インタビューさせたい

宗我部

宗我部 子どもたちが失敗しないようにと、つい固く考えがちですが、もう少し柔軟になるべきかもしれません。

永江 失敗できるのは若いうちだけですからね。

話し言葉と書き言葉は違う

宗我部 永江さんは、インタビューの現場で失敗したことがありますか。

永江 小さな失敗ならたくさんありますよ。私はテープ起こし(※)を自分でするので、インタビューの録音テープを聞いていると「なんてバカな質問をしたんだろう」とか「聞き間違えたまま次の質問をしている」ということがよくあります。テープ起こしを外注するライターも多いですが、私は自分でテープを聞き、質問の仕方、問のとり方、言葉づかいなどを反省して、次に生かすようにしています。

また、テープ起こしをしていると、話し言葉と書き言葉は、根本的に違うというこ

とを痛感します。人から話を聞いて、それを文章化するということは、頭の中で話し言葉から書き言葉へコード変換しているわけです。子どもたちにインタビューをさせる際、それを自覚させることも大切なことだと思いますね。学校でICレコーダーを使っているんですか。

宗我部 レコーダーの台数が限られていまして、どうしてもメモが中心になります。**永江** レコーダーは安いものと三千円ぐらいで買えるので、ぜひ子どもたちに使わせてみてほしい。もし私が教師だったら、レコーダーを一人一台渡してインタビューをさせたいですね。その音声聞こえた通りに文字にし、そこから読みやすい言葉にどう変えていくかという授業をしてみたいと思います。

宗我部 それ、すごくいい勉強になりそうですね。対話しているときは整然とした話に聞こえていたのに、実際に文字に起こしてみると話が行ったり来たりしていたり、

永江 あはは。

宗我部 「同じことを何度も聞いている。この人は話を聞いていないんじゃないか」と。でも、しっかり読みこんでいくと、「答えがわかっている質問しているのかもしれない」「別の言葉を聞き出したかったんじゃないか」という意見が出されました。

永江 黒柳さんは事前にゲストのことをよく調べていて、「なんでもあなたはうなずいて」と話のきっかけを出し、ゲストが話し終わると、重ねて「そのときあなたはうなずいていないですか」と、ゲスト自身の言葉で語らせようとしています。

宗我部 話の運び方がとても上手ですね。**永江** また、事前に調べてわかっていることにも初めて聞いたように驚くし、声に出して笑います。全身で「あなたの話を聞いていますよ」と表現する。だから、ゲストは安心して気持ちよく話すことができるんですよ。『徹子の部屋』はインタビューのお手本です。

宗我部 永江さんは、『話を聞く技術！』

「あー」とか「へー」とかが入っていたりすることに、子どもは驚くでしょうね。**永江** 書き言葉にするとメチャクチャなのに、インタビューの場面では話を通じてコミュニケーションが成立しているというのは不思議ですよ。それに気づくことは、言葉の世界を拡張していくことにもなると思います。

名インタビューアーに学ぶ

宗我部 以前、テレビ番組の『徹子の部屋』を、私がすべて文字に起こして、子どもたちに見せたことがあります。そして、「黒柳徹子さんはインタビューの名人なんだよ。プロからその技を盗んでみよう」と投げかけました。すると、文字原稿を読んだ子どもたちの第一声は、「先生、この人は本当にインタビューがうまいんですか」でした。

インタビューは、

失敗した方がうまくなりますよ

永江

特集

「インタビュー」で
育てる力

※テープ起こし
ICレコーダーなどに収録された音声データを、そのまま文字原稿に起こすこと。

かせたいです。それから、「自分はどの人に近いだろう」と考えさせてみたいですね。

身近な人の話を引き出すには

宗我部 ところで、中学校二年の教科書には、「小さな『物語』を探る」という教材があります。身近な人にインタビューしてそれを「聞き書き文集」にするというものですね。例えば、親や友達にインタビューする場合、事前の下調べがしにくいため、質問をつくるのが難しいことがあります。そういうとき、プロならどうするかお聞きしたいのですが。

永江 下調べができないので、その場で調べるという感じになるでしょうね。それか



永江 文集にして読んでもらうことまで考えると、リーダーブルであることが求められますね。リーダーブルには二つ意味があつて、一つは読みやすさ、もう一つはおもしろさです。正しいことが書いてあつても、読む気がしないものはリーダーブルであるとは言えません。中学生にどこまで求めるのかは難しいところですが、楽しい文集ができれば、子どもたちも「インタビューしてよかったな」と思うはずです。こんなふうによめてごらん、とモデルを示してあげてもいいですね。昨年はこんな文集を作ったよと先輩が作ったものを見せると刺激になるかもしれません。

宗我部 そういう子どもの手の届きそうなモデルというのは、いいですね。子どもたちが活動しやすくなります。

他人の言葉を引き出すことによって、違う世界に出会えるんです

永江

ら、自分との距離が近い人は、かえってインタビューしにくい場合があるんです。照れてしまったり、「これは聞けないな」と遠慮してしまったり。そういうときは「小道具」があると、話しやすいんです。

宗我部 「小道具」、ですか？

永江 いきなり「おばあちゃんの若い頃がどうだったかを教えて」と聞くのではなく、例えば、「〇歳のときに結婚して、〇歳のときに子どもを産んで……」と、いっしょに「年表」を作りながら聞いていく。面と向かつて話をするのが恥ずかしい人でも、「年表」という「小道具」を使って作業しながらだと、わりと話しやすいんです。

宗我部 ああ、なるほど。親しい人だと、その作業自体が楽しくなりそうですし、作業する中でいろいろと思い出しそうです。すごくいいアイデアですね。ぜひ授業でやってみたい。スピーチ指導で、「ショウ・アンド・テル」と言つて、子どもに物を持たせてスピーチをさせるというのがあるんですが、そうすると、子どもは人前で話す

ことへの抵抗感がぐつと下がるんですね。物を仲立ちにするというのは、確かに、インタビュー指導でも使えるそうです。

それから、新版教科書には、一年一学期に「友達をみんなに紹介しよう」という教材が入りました。友達を取材して紹介するというものです。入学したての子どもたちの中には、自分について話すことに抵抗を感じる子もいるかもしれません。でも「小道具」があれば、ぐつと話しやすくなりそうです。

永江 「思い出の写真」を持ってこさせてもいいし、鉛筆でもボールでも、「今の自分を表している物」を持ってきて、物に語らせるというのでもいいかもしれませんね。

宗我部 二年の「小さな『物語』を探る」では、最後に「聞き書き文集」を作るんですが、私はインタビューのまとめ方、聞いたものをどう生かすかということがとても大事だと思っています。インタビュー指導は、ともすればインタビューすること自体が目的になってしまう場合があるので。

自分の世界が広がる

宗我部 最後に、子どもたちがインタビューを学ぶ意義について、永江さんのお考えをお聞きたいのですが。

永江 ふだん同年代の子と接している子どもたちが、インタビューで外に出かけていくと、自分とまったく違う大人と会うわけです。他人に会うのは緊張するけれど、インタビューをすることで、まったく違う世界にぶつかっていく勇氣がもてるようになるんじゃないでしょうか。

実を言うと、私はいまだにインタビューに出かけるとき、心配になつて気が重くなるんです。

宗我部 えつ、永江さんでも？

永江 初対面の人と会うときは、やはり緊張します。でも、実際に会つて話を聞き始めると、いつのまにか夢中になっています。思いもよらないことを知ることができたり、こんなふうにも見る人がいるんだと驚いたり。そのたびに、インタビューしてよ

かったな、楽しかったなと思いますね。

宗我部 インタビューでは、聞く力や質問する力も大事ですが、今日のお話をうかがつて、その場のやりとりの中で生まれるコミュニケーションがとても大事だと感じました。失敗を恐れず子どもたちにインタビューをさせ、コミュニケーションの力を付けさせたいです。

永江 身近な人へのインタビューでは、自分と同じものを見ても、違うことを考える人がいるということを、身をもって実感できると思います。他人の言葉を引き出すことによって、違う世界に出会うことができます。

宗我部 インタビューによって、人とふれあい、言葉でつながっていく。それで、自分の世界がぐつと広がるんですね。永江さんからたくさんアイデアをいただいて、新しいインタビューの単元を作りたくなくなりました。今日は本当にありがとうございました。

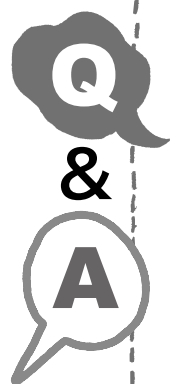
インタビューで、コミュニケーションの力を身につけさせたいですね

宗我部

特集

「インタビュー」で育てる力

インタビュー指導



インタビュー指導のさまざまな疑問について、
本誌連載「教師力講座」でもおなじみの甲斐先生にお聞きしました。

港区立赤坂中学校教諭 甲斐利恵子

Q1 インタビューの事前準備は、何をしたらよいのでしょうか。

A1 下調べをし、質問を吟味させましょう。

誰にインタビューするかによって、準備は変わります。下調べすることはもちろん必要ですが、身近な人にインタビューする場合は、効果的な下調べができないこともあるので、私は質問の吟味に時間をかけるようにしています。

■よく知っている友達の場合

例えば、「友達の魅力を語る」というインタビューの場合、「その子がいちばん光っているときはいつだろう」「その子らしさは何だろう」など、その友達の魅力を分析し、質問の切り口を考えます。部活・授業・体育祭・合唱コンクール・習い事……など、友達が生き生きと魅力的に見えた場面を思い出し、質問を考えさせるとよいでしょう。

■あまりよく知らない友達の場合

新版教科書には一年一学期に「友達をみ

んなに紹介しよう」という教材が入りました。入学したての子どもたちは、まだお互いをよく知らないで、「夢中になっていることは何ですか」「マイブームは何ですか」などの、共通の質問を考えさせるのがよいと思います。その場合、「嫌いなもの」や「苦手なこと」を聞くのではなく、「好きなもの」や「気に入っていること」など、ポジティブな質問の方がよいでしょう。

■外部の人の場合（職場訪問など）

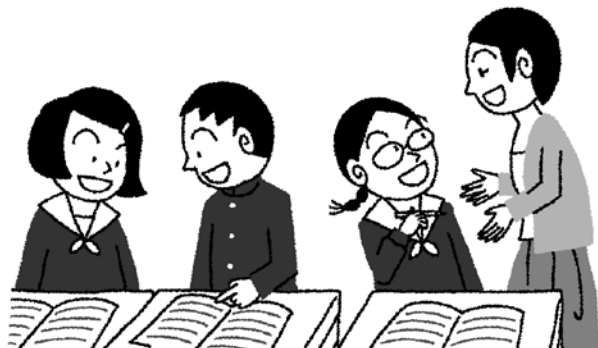
その人の職業について調べさせることはもちろん大事ですが、中学生なので下調べには限界があります。ですから、調べていく中で感じたことや考えたことをふまえて質問させるとよいでしょう。

例えば、お寿司屋さんにインタビューするときに、「仕込みはどういう順番で行うんですか」という質問をしても、そこから

Q2 質問を考えられない子どもには、どのように指導したらよいでしょう。

A2 教師がモデルを示したり、個々にアドバイスしたりするなど、手厚い指導が必要です。

インタビューの事前準備には、教師の手厚いサポートが欠かせません。質問を考えられない子には、教師が質問のモデルを示



すとよいでしょう。具体例を見せ、「話がつながっていく質問」があることを意識させることも大事です。

例えば、「いつ、この仕事につこうと思ったんですか」という質問だと、「大学生のときはです」……と、一問一答になりがちです。基本情報としてそういう質問も必要なのですが、「仕事の中で、大きな失敗をしたことはありますか」という質問だったら、「〇〇という失敗をしました」と、「その失敗を繰り返さないために、どのような工夫をしていますか」……と、話をつなげていくことができます。この質問をしたらどういう答えが返ってくるだろうか、という予想をしながら、「つながる質問」を考えさせるようにします。

また、できれば教師は、子どもたちがインタビューする相手を把握し、個々にアドバイスするのが理想です。それが難しい場合は、隣の席やグループで見せ合っている、「この質問はつながりにくいんじゃない？」と、子どもどうしでアドバイスさせるのもいいかもしれません。

私は、子どもたちに「質問力」をつけさせるため、インタビュー指導とは別に、「スピーチ大会」「質問力」を考える」という単元を設定したことがあります。P15

は、なかなか話が広がりにくいかもしれません。ですから、下調べする中で「仕込みで大変そうだな」と思ったら、「仕込みは大変そうですが、その中でもいちばん神経を使うところはどこですか」と、子どもが感じたところから質問を考えさせるとよいと思います。

また、「この仕事をやっている楽しいときはいつですか」「お客さんに言われてうれしい言葉は何ですか」「くじけそうになることはありませんか」など、仕事をしていて感じる喜びや苦労などは、どんな職業でも聞ける共通の質問です。そういう質問を考えさせることも大事だと思います。



イラスト：おのみさ

でご紹介していますので、参考にしてみてください。インタビュー指導の前に、このような単元を設定し、子どもの「質問力」を鍛えるのも一つの方法かもしれません。

Q3 インタビューをさせると、一問一答になってしまいます。

A3 相手の言葉を引用したり、自分との共通点を見つけて質問するようにアドバイスしましょう。

事前に「つながる質問」を立てておくことは大事ですが、とはいえ、実際の場になると一問一答になってしまうこともあるようです。

私は、「相手が言った言葉を引用して質問しなさい」と、子どもたちにアドバイスをしています。「〇〇と書いていましたが、〇〇なんですか？」と聞くようにすると、一問一答にならず、話をつなげていくことができます。

また、自分との共通点を見つけて質問することも大事です。例えば、野球にまつた

特集

「インタビュー」で育てる力

Q4 インタビューを文章にまとめさせるとき、どんな指導をしたらよいでしょう。

A4 事前に文章にまとめることを伝え、相手の表情やしぐさ、印象的な言葉に注意しながらインタビューするよう指導しましょう。

興味がない女子が、野球に夢中になっている男子にインタビューするとします。「野球なんて興味がない」という姿勢だと、必ず話は途切れますが、「野球に夢中になつて時間を忘れることはありませんか。私は、本が好きでよく時間を忘れて読みふけてしまふのですが」と、自分との共通点を見つけて質問するようにアドバイスすると、話がふくらみます。たとえ野球に興味がなくとも、相手の心の動きや周囲の状況などから、共通点を見つけることはできるので

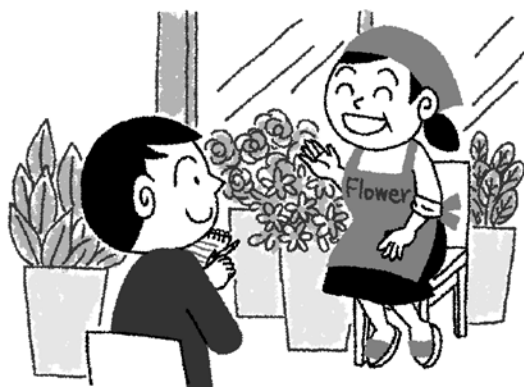
す。

以上の二点に気をつけて質問するよう促すと、話を聞く姿勢も変わってきます。「ここをもっと詳しく聞こう」「このことなら聞ける」と、アンテナを張って聞くようになり、一問一答のインタビューになり、相手の話を豊かにするためのインタビューなんだという意識をもたせたいものです。

文章にまとめることを事前に伝え、相手の表情やしぐさなどを、見ておくように伝えます。「目を輝かせながら話した」、「ちよつとはにかみながら」といった表現が入ると、生き生きとした文章になります。また、私はインタビュー中の「光った言葉」を、カードに書かせるようにしています。相手の魅力を伝えるには、相手が発した印象的な言葉を取り出すとよいと考えているからです。

インタビューのメモから、相手が発した「光った言葉」をカードに書き出し、ナンバリングさせます。そして、カードを並べて「この言葉を中心にまとめよう」と、使う言葉を決めたり、言葉の順番を入れ替えたりして、文章の構成を考えさせるのです。また、インタビューの前に、モデルとなる文章を読ませておくといでしょう。教師が書いた文章でもいいですし、教科書の関連教材（「補助犬とともに」二年）でも

いいです。それを分析させて、どんな特徴があるか事前に考えさせるとよいと思います。普段子どもたちが書いている、自分の感想や考えを入れる文章とは違い、「相手の魅力を伝える」という文章であることを、きちんと示してあげることが大事です。



「質問力」を育てるために

インタビューには「質問力」が大事です。私は、その力を育てるため、「スピーチ大会—「質問力」を考える」という単元を設定しました。子どもたちに「二〇一一年 夏を語る」というテーマで短いスピーチをしてもらい、それについて、みんなで質問するというものです。

この場合、スピーチの中身はさして重要で



はありません。どんなにつまらないスピーチでも、聞き手の力で、豊かにおもしろくしていくというのが趣旨です。

例えば、「家族で北海道に行きました。とても楽しかったです」と発表した子がいたら、「北海道といえば、海の幸がおいしいですよね。何か食べましたか」とか、「広々としたイメージがありますが、実際に行ってみてどうでしたか」とか、質問を挙げさせます。一通り質問が出揃ったところで、教師が「〇〇さんの質問は、さだから、いい質問だね」「〇〇さんの質問は、広がりがないかもしれない」「〇〇さんの質問は、広がりがないかもしれない。など、それぞれの質問についてコメントします。スピーチした子どもが、質問に回答をしないのがポイントです。子どもたちは質問を考えることに集中し、その質問がよかったかどうかを教師がジャッジするというシンプルな流れです。

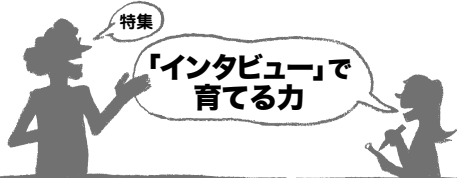
単元のおわりには、子どもたちといっしょに、「どんな質問をしたらいいのか」を出し合い、まとめてプリントにしました（下記参照）。この単元は、「いい質問って何だろう」と深く考えるきっかけになったようです。「日常生活でも、今のは『いい質問だったかな』と考えるようになりました」という感想を書く子どももいました。

「いい質問」についてまとめたプリント（二部抜粋）

まとめ

どんな質問をしたらいいのか。（体験談の場合）

- ▼話し手のいちばん伝えたいことにふれる。
- ▼答えにくいことは聞かない。
- ▼（答えを想定してみる）
- ▼漠然としたことは聞かない。
- ▼このことを聞くと話が深まりそうかどうかを聞く。
- ▼一問一答になりそうなのは聞かない。
- ▼（一問一答にならないよう続けて聞く）
- ▼わからないことはまず聞く。
- ▼そのあとつなげて聞く。↓自分の知っていることにつなげて聞く。
- ▼話し手が話したことを聞かない。
- ▼話し手の言葉を引用して聞く。
- ▼自分との共通点を探しながら聞く。
- ▼自分の例を出して聞く。
- ▼具体的な答えを用意して聞く。
- ▼選択肢を用意して聞く。
- ▼コメント（感想・意見）＋質問で聞く。
- ▼話がひとしきり盛り上がったあと、「ところで、どうですか」と聞く。





インタビューエッセイで学び合う (一年)

1 はじめに

級友にインタビューを行い、「その人らしさ」をみんなに伝えるための短い作文を書く。それをクラスで読み合い、インタビューの仕方や作文の書き方を学ぶ。この一連の学習を繰り返し、実践の中で少しずつインタビューと作文の腕を上げ、最後の作文を文集にまとめるという単元である。この作文を「インタビューエッセイ」と呼んだ。実践の場は五回。インタビューを成功させるための気づかいや質問の仕方、記録の取り方などを学び、それを実践する練習の場として七分間のインタビューを行った。その内容を二百字でまとめる。それをクラスで読み合いながら実践を振り返り、次の実践に生かす。この学習を、条件を変えつつ四回行い、五回目に四百字のエッセイを書き、文集にした。

2 指導計画 (全八時間)

目標

- ・質問しながら、より詳しく聞き取る力
- ・集めた情報を整理し、文章にまとめる力

第一次 準備 (二時間)

- ・インタビューの基本事項を学ぶ。
- ・インタビューで話したい内容を考える。
- ・質問する練習をする。
- ・メモを取る練習をする。

第二次 練習 (四時間)

- ① 質問を考える (三分間)
- ② 一人に対して、二〜三人でインタビューを行う (七分間)

- ③ 二百字のエッセイにまとめる。 (十五分間)

- ④ 次時にエッセイを読み合う。

- ⑤ 新たなコツを見つけ出す。

※①〜⑤を、役割を代えながら四回行う。

第三次 本番 (二時間)

ペアで、十分間のインタビューを交互に行い、四百字のエッセイを書く。

第四次 まとめ (二時間)

エッセイ集「この人ってこんな人なんだ」を配布し、読み合う。

3 指導の実際

(1) インタビューの基本を学ぶ

指導者が準備したインタビューの音声 (※) を聞き、要点を出し合った。インタ

ビューとして大切な「三つの気」(気づかい・楽しい雰囲気・本気)と、より具体的に相手を知るための質問の仕方を学んだ。また、音声はメモを取りながら聞き、要となる言葉を記録する練習も兼ねた。

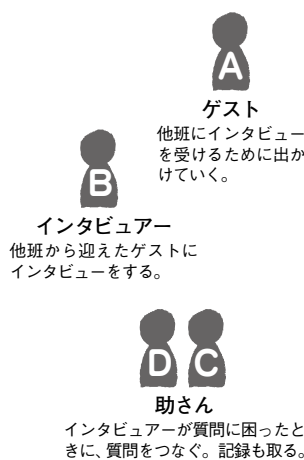
(2) 実践前に準備をする

全員が一度はインタビューを受ける。そのときに話したい内容を、三つのテーマ (小さな旅・趣味の楽しさ・印象的な出来事) から一つ選び、二百字で作文を書いた。

また、作文のタイトルから質問を考える練習を行った。例として「負けたけれどうれしかった試合」というタイトルに対する質問を全員で考え、基本的な事実を確かめるために5W1Hを使うこと、心情を引き出すために類語や例えを挙げて答えやすくする方法を学んだ。

(3) 緊張感と安心感のある場

生徒どうしによるインタビュー学習なので緊張感と安心感がある場を設定したいと考えた。そのため四人班を編成し、次のA・Dの役割を代えながら四回の練習を行った。複数でインタビューをすると、話の方向性が定まらない。だからと言って一人で務



めるのは責任が重い。そこで「助さん」という役割を設け、インタビュアーが質問に困ったときに助けることにした。

他班から来たゲストに、今日の作文のタイトルを聞き、三分間で質問を準備する。他班からやって来たゲストは、初めは少々緊張している。しかし、次々と質問に答えられているうちに、次第に和やかな雰囲気になっていった。ゲストの緊張を解き、三人で協力して本音を聞き出す場となった。

(4) 文章を読み合いコツをみつける

「インタビューエッセイ」を書く前に、『プロフェッショナル仕事の流儀』(NHK出版)の書き出しを読んだ。「いつもの作文よりも少し格好よく」と話し、十〜十五分では全員が書きあげた。ゲストとなった生徒はインタビューを受けた感想を書いた。次時に四名分のエッセイと四名分の感想を印刷して、読み合った。

■みんなで読み合ったエッセイ

「友人がいなければ無理だった。」S君はバスケの大会のことをそう話してくれた。彼がバスケを始めたのは、小学四年生の頃。当時は遊び心でやっていたという。ところが、ある時からバスケは彼にとってなくてはならぬ存在となった。ある大会のこと。チームのエースが休んだ。とまどいの中での試合。そんなチームを救ったのは、「絆」だった。S君はこうふり返る。「勝つという全員の心が勝利に導いた」。この思い出は今、彼にとって最高のものとなっている。

■インタビューを受けた感想

初めは言いたいことが伝わるか不安でした。しかし三人ともずっと笑っていて話しやすかったです。O君がリードするような感じで「この時はこんな気持ちだったのですか」というように、助けるような質問をしてくれて、O君が黙ってしまったときには、助さんのT君がすぐに質問をしてくれたので、リラックスして楽しく質問に答えられました。

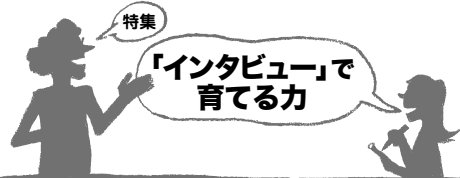
エッセイを読み合いながら、「その人らしさ」が表れる文章にするために、ゲ

ストの言葉を引用する、表情を書くなどのコツを出し合った。また、インタビューを受けた感想を読み、うなずきながら聞く、全員笑顔でいるなどのコツも出された。

4 おわりに

生徒の感想には、質問され返答に困ったが、考えているうちに新たな記憶が掘り起こされたり、自分の本心に気づいたりしたこと、また、ゲストとしてインタビューを受けるときの緊張感が、次第に自分の話を真剣に聞いてもらえる楽しさへと変わっていったことが書かれている。数名分のエッセイを読み合う場面では、エッセイの書き手だけでなく、エッセイの中で褒められたゲストがうれしそうに照れている姿が微笑ましく、級友の新たな一面を知ることがクラスのみんなで楽しめた単元となった。

今後、生徒が主体的に課題を探究するために、自分で問いを立てて調べ、さらに新たな問いを立て、問題を掘り下げ、それをまとめて他者に伝える学習の積み重ねが必要だと考えている。その土台の学習の一つとして、今回の単元が生きてほしい。



※『NHK アナウンサーとともにことば力アップ』(2009年4月〜2010年3月号/NHK出版)の中の、小野文恵アナウンサーの記事「インタビュー三つの気」などを参考に、架空のインタビュー音声を作った。



身近な人の魅力を語る

使用教材…『小さな物語』を探るインタビューで取材する(二年)

1 はじめに

二年生の学習もいよいよ最後のまとめの時期を迎え、「身近な人の魅力を語る」という単元を設定した。二学期に、「盆土産」や「字のないはがき」で、「登場人物の魅力を語る」という単元を学習した生徒たちに、今回は、身近な人の生き方や考え方に目を向けさせたい。本単元では、次のような力をつけたいと考えた。

1 インタビュする力

- ・ 目的をはっきりさせて聞く
- ・ フォーマルな話し方・聞き方

2 インタビュー内容をまとめる力

- ・構成を工夫して書く
- ・言葉を選び、自分のコメントを加えて書く

指導計画（全五時間）

第一次
(二時間)

・関連教材「補助犬とともに」を読み、筆者のインタビューを想像する。

4 おわりに

質問しているようだ」など、活発に意見が出された。プロから、話の聞き方、質問の仕方のコツを感じとることができたようだ。

② 自分だったらどんなインタビュをするか考える。

前時にまとめた構想メモや、教科書P186―187を見ながら、インタビュの流れを記録用紙にまとめる。生徒たちは、インタビュのイメージがつかめたらしく、意欲的に流れを組み立てていた。

② 自分だったらどんなインタビューをするか考える。

前時にまとめた構想メモや、教科書P186―187を見ながら、インタビュウの流れを記録用紙にまとめる。生徒たちは、インタビュウのイメージがつかめたらしく、意欲的に流れを組み立てていた。

そして、原稿のまとめ方を指導した後、清書用紙を配布し、インタビュウと清書を春休みの宿題にすることを伝えた。

※2 構想メモ
B6サイズの小さな用紙に、イン
タビューの相手、テーマ、質問項
目を簡単にメモさせる。

※3 記録用紙

「徹子の部屋」を観た後に、上半分を記入。下半分は、実際にインタビューしたときの記録。この生徒は三年生の先輩に「受験」について聞いた。

また、筆者はこの単元に入る前に、構想メモ・記録用紙を記入し、実際にインタビュウを行って原稿をまとめた。それによ

そして、清書した原稿は、三年生の最初の国語の授業で提出させ、教室へ掲示。あわせて、学年一冊の「聞き書き文集」を作り、生徒たちに配布することとした。

3 指導の実際

第一次
第五時

▼本時の目標

インタビューの実際を知り、自分のインタビューの流れを考える。

生徒は前時で、教師の構想メモ・記録用紙・モデル原稿を見て、大まかなインタビュの流れをつかんで、自分の構想メモを書いている。本時では、より具体的なインタビュの流れについて考えさせたい。

① テレビ番組『徹子の部屋』のビデオを視聴し、プロのインタビュアーの話の受け方、伝え方についての具体的な工夫がある。

ビデオを観終わった生徒からは「うなずきながら聞いている」、「共感しながら聞いている」、「相手のことを調べたうえで

り、自分自身が指導する際に気をつけることをつかむことができた。教師もインタビュウをして書いてみるということが指導の際のポイントと言えるかもしれない。

※4 清書用紙

「受験という大きな壁」というタイトルで、受験勉強から、試験当日までの流れを、相手の言葉をうまく引用しながらまとめている。

受験という
大きな壁

和受ももう三年生
今年は受験生となる。

立。ていつ先輩達は受
 という大きな壁を乗り越えて中々卒業していった。受
 という大きな壁を乗り越えた一人が先輩である。

「演劇は引退する方が他の方老に比べて遅い方だからかな」と強て言ひつゝ冬休みから勉強しなしたんで、演劇は区大会があり、引退する時期が少しずれる。受

生り。牛草はもしかしたらあせりを覚悟してはいたかも知れないが、部活と勉強の両立の大変さ以外には大変なつてことがあつた。「冬休みでうまで全然やつていなかつたので、死ぬ気でやりま

「おれは辛かったぞ。」
「TV番組がどうも言っている余裕もなくなるくらい受難
迫られていたそうぞ。」

「歌人張はあせり前ですけど、東劇部の舞台発表ほは緊張しませんでした。……やり残した所はないかな。……あんま勉強しな。……周りの人遠慮良さを……マイナスなことはかり考へな。」

受験当日：テストの日、気持ちにはマイナス思考になる
ど緊張するものなのか、モレ收ない。

て思いました。負けず嫌いの成長しちやうて、受験を通して教
をわけていけぬことをぞうしました。」

楽しい国語学習のスタートを

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



Q

今年度も、もうすぐ終わりですが、最初からやってあげばよかったと思うことがいくつもあります。次の四月に備えて準備をしたいので、早い段階でやっておいた方がいいということがあれば教えていただけますか。どんなことを大事にして、具体的にどんなことをやっていけばいいのでしょうか。

A

四月の子どもたちは本当に輝くばかりの表情をしています。大村はまさんは「教えるということ」(ちくま学芸文庫)の中で中学生たちを「身の程知らずに伸びたい人」と称しましたが、私も「やる気」が歩いていけるような人たちだなと思います。さすがに中学生ですから素直にその気持ちを出そうとしない人もいますが、本人の意思とは関係なく、「やる気」がこぼれ落ちていきます。実に

ほほえましい様子です。この「やる気」に満ちた人たちの「伸びたい」という気持ちを本当に大切にしたいと思います。
「楽しい授業」は私たちの切なる願いですが、「楽しい」を間違つて途端に子どもたちの心は離れていきます。中学生たちの「楽しい」の中には、必ず「学びの実感」が必要です。今回は、中学校国語のスタートの授業を紹介したいと思います。

「学び」のための自己紹介

記念すべき国語の授業の第一回目では、よく教師の自己紹介が行われます。私も若い頃はそれで一時間のほとんどを費やし、子どもたちを笑わせたりしながら国語の先生は楽しそうだと思わせたことに満足したりしたものでした。

思い出すと恥ずかしくなります。国語の授業での自己紹介という意識が薄く、その場をしのぐことに必死だったことはわかりますが、これでは子どもたちはついてこないですね。また、ぶっつけ本番で子どもたちに自己紹介をさせてしまうのはもったいないことです。何の準備もないまま話をさせても魅力的な自己紹介はできません。

私の自己紹介は後で行う「名前の本」という単元(漢和辞典の学習をかねて、自分の名前を調べ、ミニ本の作成とスピーチを行う単元です)を意識してやりました。一分スピーチをイメージしていたので、黒板に名前を書いて「一分で自己紹介をし

私が行った自己紹介

私の名前は甲斐といます。アサリとかシジミの貝ではありませんよ。やり甲斐があるとか、やった甲斐があったねというときの甲斐です。

利恵子という名前は自分では「利益に恵まれる子」という意味だと思っていました。あるとき母に尋ねてみたんです。

「利益に恵まれる子になって欲しいと思ってつけたんだよね。お金持ちになってほしいという意味でしょ?」と。そして母が言うんです。「確かにそうだけど、ちょっと違う。利益に恵まれる子にもなってほしいけど、できれば利益を恵む子になってほしい。この人に出会えてよかったと、周りの人にも思ってもらえる人になれるといいね」と。

みなさんが甲斐先生に出会えてよかったと思えるような授業をしたいと思っています。よろしくお願いします。

授業記録から

今年度の中学一年生の授業記録を振り返ってみると、最初の数時間は次のような内容でした。

- | | |
|------|--|
| 4/13 | 一、ノートの書き方(授業記録)
二、「国語教室通信No.1」 |
| 4/14 | 一、「国語教室通信No.1」つつき
二、副教材の配布
(自主学習のすすめ) |
| 4/15 | 一、「国語教室通信No.1」最終回
二、教科書を見る
三、朗読をしよう |
| 4/19 | 一、朗読劇場
『お父さんのバックドロップ』
二、朗読をしよう
『朝のリレー』谷川俊太郎 |

やはり、学習の第一歩として、ノートの書き方から始めました。学んだことを言葉にしていける作業が基本であることを教えたいと思うからです(ノート指導については「教師力講座4」二〇〇八年九月号を参照)。

そして、第一時間目から「国語教室通信」というのがあります。これは、私が学習の見通しや言葉に関する「ラム」などをまとめたプリントで、月に2回ほど作成し子どもたちに配布しているものです。いろいろな言語活動へつなげるための材料でもあります。「国語教室通信No.1」では、最初の時期にふれておきたい心得や活動など、これからの学習にとって大事だと思つたことを盛り込みました(P22-23参照)。

また、三時間目以降には「朗読」を設定しました。この時期に朗読の学習をすると「声を届ける」という意識ができ、一人ひとりが声を出すことで表現することの楽しさを味わえます。さらに、教室が明るく開かれた空間になり、声を聞く楽しさも味わうことができるのです。

●類語大辞典より

言葉には広がりがあって、それを知ること、使うことは楽しいという実感をもたせたいと思って作ったコーナーです。

「類語大辞典」は、国語の授業でしばしば登場する魅力的な辞典です。子どもたちはこのコーナーが大好きです。

●今週の本棚

常に読書的话题をしようと決意して作ったコーナーです。ここで取り上げた作品を朗読してあげることもあります（私はそれを「朗読劇場」と呼んでいます）。

このコーナーのおかげで、私は書店に行くのが習慣になりました。

●漢字コーナー

子どもたちに人気のコーナーです。今回取り上げた漢字はすべて「あて字」です。訓読みを考えると何となくわかってくることから、漢字には「意味」があることを伝えたいと思いました。

言葉に出会うために

新版国語教科書には、一年のいちばん始めに「言葉に出会うために」という単元が設定されました。次のような項目があります。

- 声を届ける
- 書き留める
- 本と出会う
- 調べる
- 言葉を読む
- いにしえの言葉に出会う
- 言葉を知る
- 言葉を楽しむ

中学生になってどんな勉強をするのか子どもたちはとても楽しみにしています。また、先輩になった二年生や三年生も新たな気持ちで頑張ろうとしています。新入生でなくとも国語学習の基本に立ち返るチャンスととらえて、これらの項目を学習に組み入れてみてはどうでしょうか。子どもたちの学びが実現するための第一歩が踏み出せたらいいですね。

●ことば

「言葉を学ぶ」教室であるということを実感できるような作っているコーナーです。ここに掲載されている言葉は、必ず辞書で引きます。

●国語教室の心得

国語の教室で心がけてほしいことをまとめました。また、授業では「心得」という言葉をまず辞書で引きました。それから、辞書は早く引くこと、引いた後のメモの書き方を伝えました。

●暗唱（古語）

声を出すこと、暗唱の楽しさを知ること、古文に慣れることの学習です。

●詩の朗読

新学期、新しい気持ちになっている子どもにぴったりの詩だと思い、「前へ」（大木実）を紹介しました。

次の時間に、詩の朗読発表会を予定し、題名や作者の読み方・息の使い方・間のとり方・声の張りについて学習しました。

ことば……端から、天から、のけから、開ロ一番、

類語大辞典より①

初めから
最初から
端から
天から
のけから
開ロ一番

山田武 編 講談社

【今週の本棚】

『お父さんのバックドロップ』

作者 中島らも
出版社 集英社文庫 ¥380 (税入)
下田君のお父さんは有名な悪役バックドロップレスラー。頭は金髪、顔は赤白のくま取り…。下田君はそんなお父さんが大好きで、毎日お父さんの話を聞いています。

【漢字コーナー】

- | | |
|-------|-------|
| ① 手巾 | ② 金字塔 |
| ③ 手風琴 | ④ 口風琴 |
| ⑤ 提琴 | ⑥ 洋琴 |
| ⑦ 氷菓 | ⑧ 洋服 |

ことば……克つ・勝つ・健気

国語教室通信

国語教室心得

No. 1
H.23.4.13

入塾おめでとう!! いよいよ中学生としての生活が始まりました。今日から国語の授業が始まります。たくさんのお言葉に出会い、言葉の豊かな人になろうと願っています。

一時間一時間の授業の大切さを自覚してください。

言葉も学ぶのです。どんな言葉にも鋭く反応できるように努めよう。

この通信から多くの情報を受けとり、「学び」の材料を見つけよう。

＜朗読＞

前へ

少年の日読んだ「家なき子」の物語の結びは、
こういう言葉で終わっている。
前へ。

僕はこの言葉が好きだ。

物語は終わっても、僕らの人生は終わらない。
僕らの人生の不幸は終わらない。
希望を失わず、つねに前へ進んでいく、物語のなかの少年ルミよ、僕はあの健気なルミが好きだ。

辛いこと、厭なこと、哀しいことに、出会うたび、僕は弱い自分を励ます。
前へ。

＜暗唱＞

大木実

暗唱に心を込めて、
面倒くさいと、心に克つ。
読書すること、考えることに
励みなさい。それも言葉の力
になるのだ。

暗唱に心を込めて、
視れども見えぬ、
聴けども聞えず、
食えども味を知らず、
— 大木実

春をめぐる昔と今

神戸女学院大学非常勤講師 東野泰子 ひがしの やすこ

一 春は名のみの

風の寒さや

どう考えても冬の真っ最中で寒いのに、どうして春というのだろうか…。正月を新春、初春ということが子どもの頃は不思議でならなかった。いつのまにか不思議と思わなくなったのは、古典文学を学んだからというより、現代の生活習慣としてなじんでしまったのだと思う。現代の生活で旧暦を意識する機会などめったにないが、改まった気分になる正月は、誰しも、「正月＝物事のはじめ＝春」ということをすんなり受け入れている。

旧暦の一月一日は現在の暦の一月末から二月のはじめ、立春はだいたい二月四日ごろで、寒さの頂点である。いにしえの人々も立春の歌を詠みながら寒かっただろう。そう思いながら古今和歌集をみると、春上巻の巻頭歌はよく知られた、

年のうちに春は来にけりひととせを
去年とやいはむ今年とやいはむ

という、在原元方ありはらもとたかたの年内立春の歌である。理屈っぽくて風情がないように思えるが、まともな暖房もなく底冷えする中で、じりじりと春を待っていた当時の人にしてみれば、年が明けていないのにもう春が来た！という喜びがあったのだろう。

古今和歌集のような勅撰和歌集では、時間の経過にしたがって和歌が配列される。立春の歌のあとは、季節の推移を追って春の歌が並べられており、三首め以降九首めまでは雪が詠み込まれている。一例をあげるなら、第七首め、読人しらず歌は、

心ざし深くそめてしをりければ

消えあへぬ雪の花と見ゆらむ

と、雪の消え残る中で花を待つ歌である。心ざしを深く染めるというところに、寒さをこらえつつ花をじっと待つ早春の風

情がある。「春は名のみの風の寒さや」唱歌『早春賦』というように、寒さもまた、春の季節感である。

二 さくらの歌と 古典のことば

古今和歌集の春上巻では、雪の歌のあと、鶯、若菜、柳の歌などが数首ずつ、そして梅の歌十七首が並ぶ。我々も梅の花が咲くと、春はもうそこまで感じるものの、現実にはコートが脱げない寒さで、気分はまだまだ冬である。ああ、春が来たと実感できるのは、三月下旬になって気温もやや上がり、さくらの便りが聞かれるころだろうか。

いにしえの人々も、やはり春は何よりもさくらであつたらしく、梅の歌のあとは春上巻から下巻にかけて七十首のさくらの歌がつづく。現代も毎年のようにさ

くらの歌がヒットチャートを賑わせること、古今和歌集の時代とかわりがない。現代人もさくらには特別な思い入れがあるのだろう。けれども、やはり、さくらというと、古今和歌集以来の伝統文化をどこかで意識するようである。

松任谷由実の「春よ、来い」の歌詞には文語のことが使われている。

春よ 遠き春よ 儼閉じればそこに

愛をくれし君の なつかしき声がする

「遠き」「なつかしき」は文語における形容詞の連体形、「愛をくれし」の「し」は過去の助動詞「き」の連体形である。この歌ではほかに「淡き」「溢るる」「まだ見ぬ」など、J-POPといわれるジャンルの歌詞としては珍しく、文語のことが多用する。これは松任谷由実がもともと持っていた古典的な感性のあらわれであろう。また、この歌のみならず、いきものがかりの「SAKURA」にも文語のことはづかいがみえる。

君と春に 願ひしあの夢は

今も見えているよ さくら舞い散る

「見えているよ」の「よ」という、非常に現代口語的な終助詞と同時に、「願ひし」と過去の助動詞「き」の連体形が使われているところが興味深い。「SAKURA」の場合は「春よ、来い」に触発された面があるが、それにしても、さくらという題材は、現代人の古典的な感性を呼びさますようである。

三 さくらと ノスタルジー

現代の詩文にも、打消の助動詞「ず」、その連体形「ぬ」、動詞の命令形「せよ」「あれ」などが使われることがある。「春よ、来い」「SAKURA」の場合、象徴的なのは過去の助動詞「き」の連体形「し」が使われていることである。現代のさくらの歌は、過ぎた時間を思い、なつかしむものが多い。「春よ、来い」も「SAKURA」も、やぶに福山雅治「桜坂」もケツメイシ「さくら」も、歌詞に登場する「君」は、今はそばにいない。これ

らの歌の中では、さくら舞い散る風景の中に、かつての「君」の姿が思い出として立ち現れてくるのである。

古今和歌集では、梅花の香りや橘の香りに昔の人を思い出す。

人はいさ心も知らずふるさは

花ぞ昔の香ににほひける (春上)

五月まつ花橘の香をかげば

昔の人の袖の香ぞする (夏)

現代ではさくらの季節と卒業入学の時期が一致しているため、人と出会い別れた記憶とさくらとが強く結びついている。さくらは毎年のように咲き、そのたび「君」への思いを深くしてゆく、それが現代的なさくらの風情である。

昔も今も、人がさくらに心惹かれるのは、春の盛りに咲いてたちまちに散る姿に、移りゆく時のかなさを感じるからだろう。春に卒業を迎える中学生は、これから先、さくらとともに幾たびかの別れを経験し、時のかなさを知ること、大人になってゆくのかもしれない。

教えて！行書のこと

行書の学習は、中学校書写の大きな柱となります。しかし、「行書って、難しそう」「うまく書けない」など、苦手意識をもつ生徒が多くいるようです。そのような生徒たちの意識を変えるためにも、行書の魅力を探っていききたいと思います。書道の歴史に詳しい、書道博物館の鍋島先生にお聞きしました。

いちばん身近な書体

なぜ中学校になると行書を学ぶのでしょうか。

鍋島 楷書は行書と違って、一画一画が独立しています。ですから、書くのに時間がかかります。一方、行書は線を流動的に続けて書いたり、省略して書いたりするので、書くスピードが格段に速くなります。行書を学ぶ最大のメリットは、時間を節約できること。みなさんも、授業でノートをとるときは、なるべく速く書くようにして、自然と行書を書いているはずです。

私は行書がうまく書けないの。先生にアドバイスをもらいたいな。



僕たちが、さまざまな行書の疑問をぶつけてみました。



イラスト：北村ケンジ

行書の成り立ち

そもそも行書は、いつ頃できた書体なんでしょうか。

鍋島 今から千九百年ほど前にはすでに行書のような姿が見られます。みなさんはきっと、行書は「楷書から生まれたもの」と思っていますよね。

楷書をくずした書体が行書だから、楷書から生まれたんでしょう？

鍋島 実は、違うんです。えっ！

鍋島 下の図を見てください。今から二千二百年ほど前には、篆書という書体がいわれていました。しかし、篆書は書くのにとても時間がかかるので、それを簡略化した隷書という書体がいられるようになりました。その後、隷書の速書きとして草書や行書が生まれ、最後に楷書が完成したのです。

篆書・隷書・楷書は、公式な書体として用いられました。楷書は今でも入学願書や履歴書など大切な書類を書くときに使いますよね。

公式の書体としての流れは、篆書から隷書へ、そして隷書から楷書へと発展していくわけですが、日常ではもっと速く

書ける書体の方が便利だということで、隷書から草書や行書が生まれたのです。

行書は、楷書よりも先に生まれたんですね。

鍋島 そうです。しかし、現在では楷書を学習してから行書を学びますよね。ですから、楷書を基準として行書の特徴をとらえる学習法が一般的になっています。うーむ。ちょっとややこしいなあ。

楷書も行書も草書も、隷書から生まれたんだね。



・日常の書体・

草書

草書

行書

行書

・公式の書体・

篆書

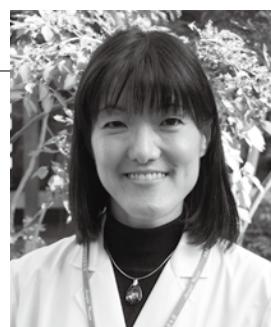
篆書

隷書

隷書

楷書

楷書



なべしま とう こ
鍋島 稲子

1965年生まれ。台東区立書道博物館主任研究員。筑波大学大学院芸術学研究所博士課程修了。博士（芸術学）。東京国立博物館客員研究員。大東文化大学講師。大阪教育大学講師。

確かに、自分のノートを見返してみると、文字の線に丸みがあったり、点画を続けて書いたりしています。

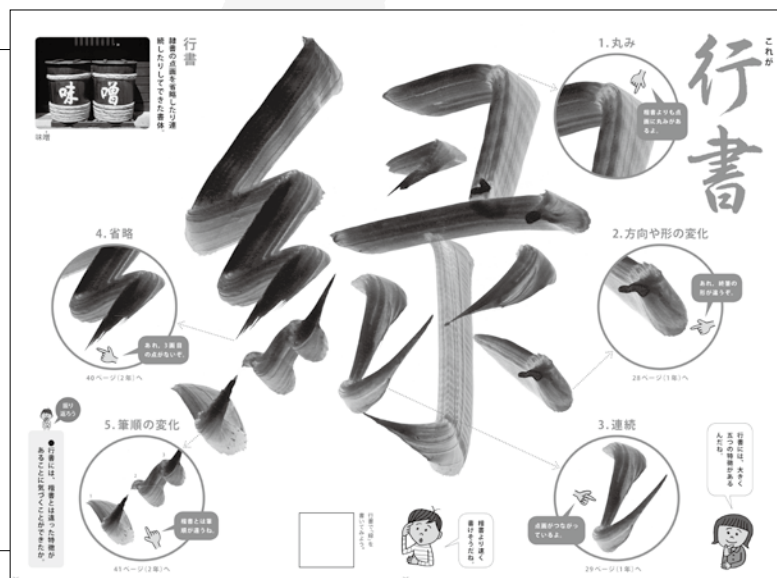
鍋島 私たちが、普段の生活で書いている文字には、行書の特徴が自然と表れているものが多いのです。ちょっとしたメモを取ったり、友達に手紙を書いたりするときは、サラサラっと、楷書をくずして書くでしょう。だから、行書は、みなさんにとって、いちばん身近な書体なんです。行書は、これから大人になってもずっと書いていく書体ですから、なるべく速く、そして美しく書けるようになりますよね。だから、中学校では、そのためのコツを学習するのです。

鍋島 みなさんは、「楷書をくずした形」というとらえ方で行書を学習してもよいと思います。でも、「行書は隷書から生まれた」という歴史的な背景があることを頭の片隅に置いてみてください。

うまく書くコツ

―行書を整えて速く書くにはどうすればよいのでしょうか。

鍋島 新版教科書には、行書を書くときのポイントがわかりやすくまとめられています（※1）。①丸み②方向や形の変化

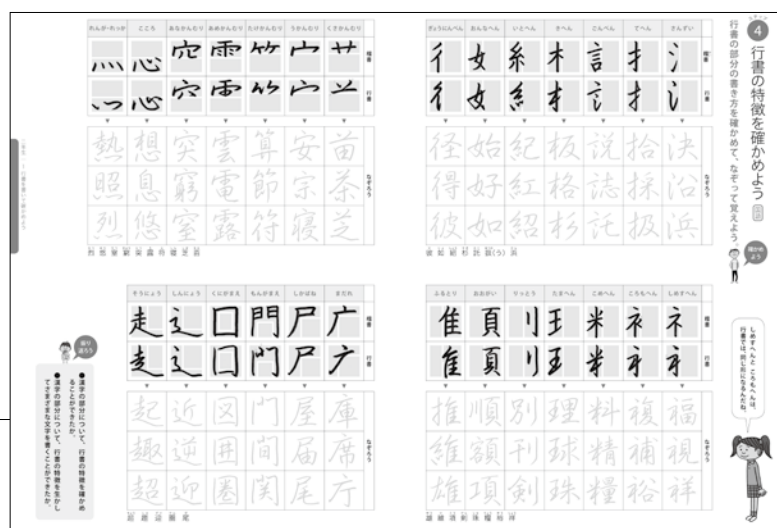


※1 平成24年度版教科書 P25-26

③連続 ④省略 ⑤筆順の変化です。この五つのポイントをおさえて書くことが、とても大事ですね。

―小学校で筆順をしっかり勉強してきたので、「⑤筆順の変化」があることに驚きました。

鍋島 筆順が変わることにとまどいを覚える人もいるかもしれませんね。筆の流れ



※2 平成24年度版教科書 P45-46

れや、速さを重視して文字を書くために、行書では筆順が楷書と異なる場合があります。また、先ほど話しましたが、そもそも行書は隸書の速書きとして生まれたものなので楷書とは筆順が違う場合があります。

―覚えることがたくさんあって、ちょっと大変そうです……。

新版教科書は、行書学習のページが、より充実しているよ。



書道博物館

書道博物館へ行ってみよう

東京都台東区にある書道博物館は、洋画家であり書家でもあった中村不折（一八六六一一九四三）が収集した、書道史研究において重要な資料が収蔵されている専門博物館です。

ラリートーク」を開催。漢字の成り立ちなどを、展示資料をしながら、鍋島先生が解説してくれまます。事前に予約すれば、小・中学生対象の「キッズセミナー」も開催してくれるそうです。

紙に書かれた書だけでなく、動物の骨、青銅器、石碑、仏像に刻まれた文字など、あらゆる資料を観ることが出来ます。また、展覧会ごとに「ギャ

三千五百年前の動物の骨に刻まれた甲骨文字や、大きな石碑に刻まれた力強い隸書を観れば、漢字や書への理解がより深まることでしょう。

「石碑は、その時代における公式書体で書かれたものが多いですよ」と説明する鍋島先生。

古代中国から近代までの、さまざまな書が展示されている。



台東区立書道博物館

- ▶入館料 一般 500円(300円) 小・中・高校生250円(150円)
※()は20人以上の団体料金
- ▶開館時間 9:30~16:30 (休館日は月曜)
- ▶電話 03-3872-2645
- ▶アクセス JR鶯谷駅から徒歩5分
- ▶HP <http://www.taitocity.net/taito/shodou>

教科書を、より効果的に活用できるようさまざまな指導書をご用意いたしました。先生方の指導を、サポートします。

指導書のご案内



古典指導の方法

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

伝統的な言語文化の重視にともない、古典の世界をさらに広げ、関心・意欲を高めるための指導書です。教科書の全古典教材について、作品理解を深める教材研究と、個性豊かな指導計画例・展開例を紹介。また、ワークシートやプリント例などの資料も充実しています。

国語科における読書指導・情報活用・新聞活用のヒント

1～3年 全1冊
本体4,000円＋税

新学習指導要領で重視された読書指導・情報活用・新聞活用について、最良のガイドブックとなる指導書です。今すぐ実践できる授業のアイデアを図や写真とともにわかりやすく紹介しています。

思考力を高める「読むこと」指導のための設問集

1～3年 全1冊
本体4,500円＋税

教科書の「読むこと」教材を生かした思考力を高めるための設問集です。教科書のすべての「読むこと」教材の学習の手引きの設問をもとに、さまざまな設問案を丁寧な解説とともに豊富に収録しました。

ピンポイントで力をつける言語活動のアイデア集

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

学習指導要領の「言語活動例」をもとに授業を構想し、3時間以内で効果的に力をつける39のモデルを紹介しています。展開例に即した独自の教材・ワークシートが付いています。

授業に役立つワークシート集

1～3年 各1冊
CD-ROM付
本体各3,600円＋税

教科書の内容に完全対応、教室の実態に合わせて活用できるワークシート

- ・教材ごとに「予習シート」「学習シート」「自己評価シート」によって構成されています。課題に取り組みながら、予習から自己評価まで確実に学習のポイントを押さえられます。
- ・使いやすいリングファイル形式。1枚ずつ外してコピーすることができます。
- ・評価の参考となるように、巻末に解答例を収録しました。

CD-ROM

授業展開に合わせてアレンジできるよう、一太郎とWordに対応するデータを収録しています。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」指導の方法

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

方法論と授業案の両方を取り上げた、教科書から発展した新しい活動ヒント集です。言語活動やつきたい力に応じて、知りたい事柄をすぐに検索できるよう、全授業案の内容紹介や用語索引も設けています。

言葉に関する理論と実践

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

言葉の学習と生徒の日常生活を結び付けることを目指した指導書です。教科書の文法・言語教材について、多様な指導のヒントを収録。言葉に関するコラムも豊富に掲載しました。また、文法に関する事項を「文法の解説」でまとめています。

教師用指導書（朱書）

1～3年 各1冊
本体各6,000円＋税

教科書の紙面に即し、授業に必要な情報を精選して示した「朱書き」教科書

- ・教科書の紙面に即し、授業に必要な情報を精選して記しました。
- ・教材冒頭には、学習指導要領との対応や配当数、時数に即した授業展開例を簡潔に提示。指導展開の見通しをもつことができ、学習を通して身につける力を意識しながら、授業を行うことができます。
- ・教材文に即して、指導のポイント、語句解説、「学習」（手引き）や漢字・文法の解答例などを朱字で示しました。押さえておきたい箇所を教科書紙面で確認しながら指導できます。

指導事例集 —個性を生かした授業構想のヒント—

1～3年 各1冊
本体各5,000円＋税

教科書教材の幅広い可能性を提案する、個性豊かな授業構想のための指導書

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の本教材については、各教材一つずつ、1年導入期や3年卒業期、各学年の読書活動教材については二つずつの指導事例を掲載しました。
- ・地域・学校・学級に応じた多様なニーズに応えるため、学習をより発展させた事例から焦点化させた事例まで、独自性ある指導事例を数多く収録しています。
- ・教師の発問や助言、生徒の反応や発言をできるだけ忠実に収録。また、板書例やワークシート例など活用できる資料を多数掲載。

学習指導書 総説編

1～3年 全1冊
DVD-ROM付
本体7,000円＋税

教科書の全体像と活用の方法を知るための指導書

- ・教科書全体の構成とその活用方法について、わかりやすく整理して解説しました。
- ・年間指導計画資料や評価規準を例示し、学習の目的に応じた授業計画を立てる際のアイデアとなるような、特定のテーマに焦点化した年間指導計画例も掲載しています。
- ・「常用漢字表」改定にあたっての教科書での対応や、特別支援教育への配慮など、さまざまな場面で役立つ資料も充実しています。

DVD

すべての教材に振り仮名を付した教科書紙面のPDF版を収録しています。

学習指導書

1～3年 各学年2分冊
CD及びCD-ROM付
本体各学年20,000円＋税

基礎・基本を押さえ、国語の力の確実な習得と定着をはかるための必携指導書

- ・全教材の指導目標、評価規準、教材分析、指導計画と展開例、また、巻末資料「学習を広げる」の活用法について、詳しく紹介しました。

教材本文CD-ROM

教科書掲載の「読むこと」教材を学年ごとに収録しました。加工可能。

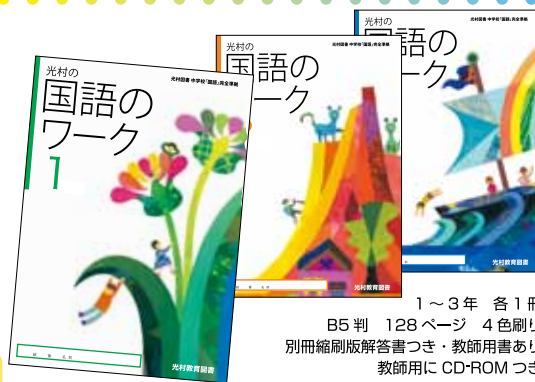
音声CD

「話すこと・聞くこと」教材に対応。教科書の教材内容に沿った実際の活動場面を収録しています。

一人ひとりに確かな言葉の力を

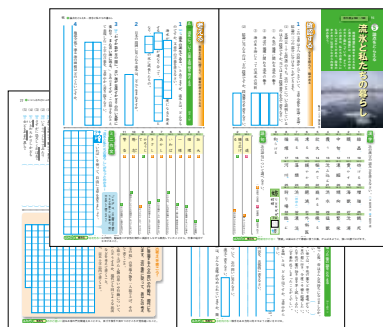
光村の 国語の ワーク

学校納入定価 各 **600円**



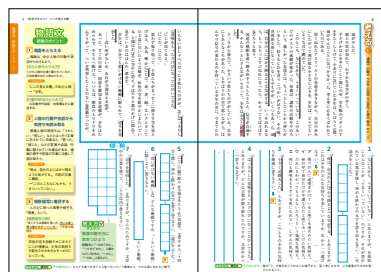
1～3年 各1冊
B5判 128ページ 4色刷り
別冊縮刷版解答書つき・教師用書あり
教師用にCD-ROMつき

「考えて書く力」を伸ばす！



- 難易のバランスに配慮した読解問題で、教科書の課題に沿って学習できます。
- 教科書課題「③自分の考えをもとう」に対応した記述問題「トライ！」を新設。根拠を挙げながら、論理的に考えを述べる問題です。
- 文法・漢字問題をボリュームアップしました。

「読解スタートページ」で 新1年生をサポート



- 小学校から円滑に移行できるように、1年生最初の物語文と説明文は、教科書本文を全文掲載しています。
・物語文「にじの見える橋」
・説明文「ダイコンは大きな根？」
- 小学校の学習内容を再確認できる「読解のポイント」を掲載しています。

見やすく便利な 別冊縮刷版解答書

- 縮刷版なので、ひと目で答え合わせができます。
- 詳細な解説が教材理解を助けます。
- ミシン目で切り離して使えます。

大好評の 教師用 CD-ROM は、 今年度も充実

- 聞き取りテストをはじめ、豊富な学習材を収載しています。

教科書に沿った構成で、 より一層わかりやすく

文法練習ノート



1～3年 各1冊 B5判
1・2年 40ページ 3年 32ページ
4色刷り 別冊縮刷版解答書つき・教師用書あり

学校納入定価 各 **380円**

全常用漢字の読み書きと字形を これ一冊で

級別 字形のポイント 新常用漢字2136



全学年共通 全1冊 B5判 160ページ
2色刷り 赤シートつき

学校納入定価 **500円**

教科書と同じ文字だから、 安心して練習できる

中学 硬筆練習帳



1～3年 全1冊 B5判 40ページ
2色刷り
直写用薄紙2枚入り

学校納入定価 **390円**

光村教育図書

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-4
TEL 03-3779-0581 FAX 03-3779-0266
http://www.mitsumura-kyouiku.co.jp/

書写

書写指導の方法

1～3年 全1冊
本体3,500円＋税

書写の基礎・基本から行書の技能習得のポイントや日常化に向けた、効果的な指導法を紹介しています。

また、文字文化への知識・理解を促す資料の提示など、書写の普遍的・系統的な指導を可能にする一冊です。

学習指導書

1～3年 全1冊
DVD-ROM 付
本体12,000円＋税

【本冊】

「総説編」・「指導編」・「研究編」という三部構成で、教科書をより効果的に活用できるよう、わかりやすく解説しています。

【毛筆原寸大資料】

すべての毛筆大字教材について、コピーして使うことができます。

DVD

教科書準拠の動画資料や、「硬筆ワークシート」、かご字・骨書き・穂先の通る道などさまざまなパターンを用意した「毛筆ワークシート」などを収録しています。

広報部便り

今回の特集、「『インタビュー』で育てる力」は、いかがでしたか。対談していただいた永江朗さんは、大学生にインタビュー原稿をまとめさせる際、「インタビュアーの個性を出すな」と指導されているそうです。インタビューの主役はあくまで話し手なのだから、インタビュアーは黒子であるべきだ、とおっしゃっていました。中学生はこれまで、感想文・意見文・報告文……など、自分の考えや思いを書く学習を重ねてきていますが、自分が黒子になって相手の魅力を伝える文章を書くという経験は多くありません。甲斐利恵子先生は、「普段は書かない文章だから、子どもたちは、いつもより生き生きと書くんですよ」と、おっしゃっていました。生徒にとってインタビュー原稿を書くことは、新鮮で楽しいものなのかもしれません。

2年の教科書には、「小さな『物語』を探る」というインタビューを題材とした教材があります。また、来春から使われる新版教科書には、記者としてインタビューする教材（3年「自分の魅力を伝えよう」）や、友達を取材して紹介する教材（1年「友達をみんなに紹介しよう」）などが、新たに加わりました。本特集を、これらの教材のご指導に役立てていただければと思います。

次号は「新版教科書Q&A」と題し、新しい教科書のさまざまな工夫をご紹介します。どうぞお楽しみに。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどございましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております。

FAX : 03-3493-3946
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp